



西正任先生のご逝去を悼む

本学名誉教授西正任先生は、平成六年十一月二十日逝去されました。謹んでお悔やみ申し上げます。

先生は、昭和二十年工学部の前身であった広島工業専門学校を終えられた後、昭和二十五年広島文理科大学をご卒業され、昭和三十六年工学部共通講座に赴任されました。以来、昭和五十八年呉高等工業専門学校長として転出されるまでの二十二年間にわたって、工学部の改組、拡充、西条キャンパスへの移転など、工学部ならびに共通講座の発展に尽くしてこられました。

先生はたいへん気さくな方で、その人柄はありきたりの言葉ですが温厚誠実そのものでした。そのせいででしょうか、先生の部屋にはよくいろいろな方がおいでになって談笑されていたのが思い出されます。

研究面では、先生はわれわれ弟子たちに対して、決してご自分の考えを押し付けることなく、私たちの自主性を伸ばすように努められていたように思います。研究上の困難に直面したときは、その豊富な物理、化学に対する知識に基づいた的確なアドバイスによって、ただだけ助けられたかわかりません。研究面以外でも、先生は決して口に出して言われることはありませんでしたが、たくさんのご意見を教えてくださいました。ありがとうございました。

先生にはお元気であれ、これからも人生のよき師で在り続けて欲しいという願いも、いまでは叶わぬものとなりました。先生への思いは尽きませんが、御霊の安からんことをお祈りして、お別れの言葉といたします。

工学部共通講座応用化学講座

藤田俊昭（ふじた・としあき）



小林利宣先生を悼む

広島大学名誉教授であり、心理学科の大先輩であり、かつ恩師である小林利宣先生が、十一月三十日、七十二歳で逝去されました。今夏の暑さがこたえたのででしょうか。九月末に倒れられて、そのまま結局回復されませんでした。

先生は、昭和二十一年九月広島文理科大学教育学科心理学専攻を卒業され、その後広島女子短期大学等で勤務された後、昭和三十五年広島大学教育学部心理学科に助教として着任されました。以後昭和四十五年の教授昇任を経て昭和六十一年に停年退職されるまで、本学で教育と研究に尽力されました。

先生の研究は、人格心理学と教育心理学の二領域に大別されますが、前者においては、特に筆跡並びに書字行動に関する精密諸測定の新しい測定法を開発し、その諸測度と人格特性の関係から、人格実験診断学を構築するという、大変ユニークな研究を展開されました。その一連の研究を昭和四十五年に「人格構造の理論的実験的研究―仮名書字行動の心理学的人間工学的実験を中心にして―」として学位論文にまとめられたのですが、私も学生時代にこの実験の被験者にたびたびなった記憶があります。

先生は広島大学をご退官後も、昨年三月まで広島文教女子大学教授として研究と教育を続けておられ、ようやく公職から身を引いて、お若いころから続けておられた郷土史研究など好きなことだけをして過ごそうとしておられたところで、残念なことでした。ご冥福を、心からお祈り申し上げます。

教育学部教育心理学講座

松田文字（まつだ・ふみこ）



浅尾晴海名誉教授のご逝去を悼む

浅尾晴海先生は、平成六年十二月十六日午後零時六分、満八十六歳の生涯を安らかに終えられました。

先生は、愛媛県、宇和島藩の重臣の家系に生を享けられ、その慈愛に満ちた、古武士の面影は私たちの脳裡に焼き付いて離れません。

戦後間もない昭和二十八年、東京工業大学から、当時では数少ない工学博士の称号を受けられ、昭和三十三年教授として前任の愛媛大学から着任、工学部機械工学科で、水力学や流体、熱工学を担当されました。

在任中、精密工学科や大学院工学研究科修士課程の設置に尽力され、昭和三十九年から五年間、評議員として、学園紛争の混乱した時期に、体調を崩されながらも、重責を究うされ、昭和四十六年停年退官されました。

退官後、昭和五十七年まで近畿大学で、機械工学科長や工学部長として貢献されました。

また、日本機械学会では、理事や中四国支部長などを歴任、学会創立六十、七十、八十周年記念で功労表彰され、さらに昭和六十三年には、名誉員に推挙されておられます。

その輝かしい功績により、昭和五十四年には、勲三等瑞宝賞が授けられました。先生の身辺の愛用品は、万年筆やカメラなど何十年もの使用に光輝いており、私たちが手塩にかけて大切に育てて頂きました。

また、甘党の先生は、よくせんざい会を催され、大鍋に作っては校内の者に大盤振る舞いをされました。先生の周りには、よくお菓子が集まり、煎茶と一緒にご馳走になりました。

先生は奥様とご一緒になって、私たちが大切に育てて下さいました。御霊を前に厚き感謝を捧げて、ご冥福をお祈り致します。

元工学部教官 角田長三多（すみだ・おきた）